

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

## ② 施設・事業所情報

名称：麻溝台保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：石井弘子	定員（利用人数）： 150名（利用者 140名）	
所在地：〒252-0328 相模原市南区麻溝台6-25-35		
TEL：042-742-6653		
ホームページ： <a href="https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp">https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp</a>		
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：1953年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：相模原市		
職員数	常勤職員： 20名	非常勤職員： 25名
専門職員	（専門職の名称） 名	調理員 7名
	保育士 35名	庁務員 2名
	保育補助 3名	事務補助 1名
施設・設備の概要	（居室数）保育室 5 乳児室 1 ほふく室 1 調乳室 1	
	（設備等）事務室 保育士室 厨房	

## ③理念・基本方針

## 【相模原市立保育園の保育目標】

意欲と思いやりのある子ども

## 【麻溝台保育園の保育目標】

生きる力の基礎である丈夫な体を作り意欲と思いやりのある心を培う

麻溝台保育園は「全園児を全職員で」を合言葉にしています。私たちがいつも大事にしていることは

- ・一人ひとりを大切に、尊重する保育を目指します。
- ・安心できる環境の中で、のびのびと安心して過ごせる保育を目指します。
- ・一人ひとりの要求や欲求に柔軟に感じられる保育を目指します。
- ・クラスの枠を取り除き、保育士全員で保育する姿勢を持ちます。
- ・その子によって必要だと思ったときに、必要なだけ関わられるようにチームワークよく保育します。

## ④施設・事業所の特徴的な取組

①オープン保育

自分で遊びを選択し、その活動を保障できるように、保育室や園庭にさまざまな遊びのコーナーを設け、最後までやり遂げる力や思いやりの心を大切にする保育を進める。

②様々な人との交流

異年齢交流や地域との人達の交流を積極的に行って豊かな心をはぐくむ。

③園内外の自然の中で豊かな経験

広い園庭、目の前の水道路、園外保育などの経験を通し自然の中での関わりを深める。

④ 子どもの主体性を育てる保育

子どもの自発性、興味から自分で考えて行うことの充実感を味わう

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和2年10月22日（契約日） ～ 令和3年3月24日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（平成25年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1)子どもの主体性・自主性を育む取り組み

3～5歳児は縦割りのグループを作り異年齢で活動しています。保育室・園庭に様々な遊びのコーナーを作り好きな遊びにじっくり取り組める環境設定をしており、室内遊びや制作、バドミントン、縄跳び、マラソンコース等で夢中になって遊ぶ子どもの姿が見られます。子どもたちで外遊びを計画することもあります。食事の時間に幅を持たせ、個々の子どもが遊びやお腹の空き具合を判断してランチルームに行くことになっています。一週間の活動の予定を掲示し朝夕の集会で話をするので、見通しを持って生活できるようにしています。異年齢の活動を通して年下の子を助けたり、年上の子を見習う気持ちが生まれています。職員は子どものやってみようという気持ちを大切にしており、興味を持ち自分で考えて行動し充実感を味わう体験を通して、子どもの主体性・自主性を育てています。

2)保育の質の向上に向けた組織的な取り組み

年2回の保育士の自己チェック表、園の自己評価表による取り組みのほかに、個々の職員が自由に評価を書いた付箋をもとにクラスや職員会議での話し合いに発展させる取り組みを行っています。年度末の保護者アンケートは「目標に沿った保育になっているか」「子どもの個性を大切にしているか」等の具体的な項目になっています。自己評価や保護者アンケートの内容、指導計画の実施状況についてを職員全体で共有し、課題の把握、改善策の検討を行っています。各種の検討チームや係分担を設置し様々な課題に積極的に取り組んでいます。PDCAサイクルにもとづく保育の質の向上に向けた取り組みが組織的に実施されています。

3)職員の連携体制

「全園児を全職員で」を合言葉にして、クラスの枠を超えて全職員で一人ひとりの子どもを大切にしたい保育を実践しています。その子にとって必要な時に必要なだけ関わられるように、職員間のチームワークを大切にしています。送迎時には、担任以外の職員も保護者との会話を心掛けており、速やかに伝えるべき情報については、リーダー会議や職員連絡ボード、連絡タイムなど状況に応じた方法で職員間の共有を図っています。

クラス会議、乳幼児会議、各種の検討委員会、職員会議等では活発な意見交換が行われ、園長は各会議で問題提起をしています。各職員が責任をもって保育活動に取り組み、何かあったら園長・副園長に報告・相談を行い、職員全体で検討して課題の解決にあたっています。報告・相談しやすい職場環境の中で全職員が連携して子どもたちに関わっています。

◇改善を求められる点

1) 地域子育て支援事業再開に向けた取り組み

地域担当の職員が中心になって地域の関係機関と連携し、地域子育て支援に積極的に取り組んでいます。園の誕生会や乳児クラスとの交流、園庭開放等の園内で行う事業の他に、子どもセンターの子育て広場事業、公民館での親子遊び等を計画的に行っています。現在は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施が中断されていますが、地域の福祉ニーズの変化を把握し、内容の評価・見直しを行い、事業の再開時にはさらに充実した取り組みが期待されます。

2) 建物の老朽化への取り組み

園の建物が古く、保護者からはトイレのにおいなどの指摘があります。子どもが心地よく生活できるとともに、障害のある子どもが安心して生活できる環境整備も必要になりますので、現在の建物への検討が望まれます。現状への検討状況を保護者に伝え理解を得るとともに一緒に検討することも期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

コロナ禍の状況の中での第三者評価受審は正直大変な部分も多かった。が職員全員で取り組んだことがチームの結束にも繋がり訪問受審を終えた後は自分たちがやってきた保育を第三者にも認めてもらえたという達成感にもなった。  
今後足りなかったところやさらに発展させたいところなどの気づきを今後活かしていきたい。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり